

9月・歴史研修会

「二上山博物館と 馬見丘陵等の古墳を巡る」

9月15日(火)、秋晴れの空の下、20名が参加。今回は博物館(1)、古墳(4)、神社(3)、天皇陵(1)等と変化に富んだ研修。車中で川井さんの「竹取物語」「広瀬神社」の楽しい話などを聞きつつ武烈天皇陵に到着。陵墓の場所等の裏話を聞き、志都美神社まで歩きコジイ優勢の社叢も見学した。



次は二上山博物館。サヌカイト原石を使った石琴の清しい音色に迎えられ学芸員の説明で見学。この博物館は3つの石がメインテーマ。即ち①サヌカイト(旧石器時代から弥生時代までの重要な資源)②凝灰岩(5・6世紀に王者の棺に使用)③金剛砂(明治以降、全国を席卷した研磨材に利用)。これらはすべて、2~1,000万年前の二上山の大噴火で生まれた火成岩です。剥片石器に使われたガラス質安山岩には瀬戸内中心に産出されるサヌカイトと、九州・中部以北などで産出される黒曜石があり、後者はよりガラス質化した物だという。歴史研修会では珍しく鉱物に関する話であったが、1時間を楽しく堪能した(以上は香芝市)。

次は古墳見学。先ず押坂彦人大兄皇子の墓と推定される牧野(ばくや)古墳。十分に整備された径55mの円墳で、広陵町の許可を得て横穴式石室内に入る。懐中電灯で照らされた室内は約10.5mの羨道の奥に石棺があり、石室の壁は大きな石でがっちり築かれている。天井の高さ(4.5m)に思わず絶句!やぶ蚊と闘いながらも見学に満足!

馬見丘陵公園で昼食。馬見古墳群の説明を受けて公園館を見学し、静かな山道を通ってナガレ山古墳の見学。



東側は埴輪を並べ葺石を葺いて築造当初の姿に復元し西側は芝生を張る。10年かけての整備で、1,600年前と後の姿と同時に見られる。葺石には二上山麓の安山岩や花崗岩を使用。675本の埴輪はFRP製に加えて住民手作り(約3割・銘入り)もあり、何となく微笑ましい前方後円墳であった(河合町)。

公園を歩いて隣にある巢山古墳(広陵町)を見学。長さ約220mの前方後円墳で、馬見古墳群でも最大級。墳丘の周囲は幅広い周濠が巡らされている。古墳の周囲を歩いたが、暑さのせいか皆さんお疲れの様子。給水休憩を取って竹取公園に向かったが、讃岐神社見学は取りやめた。(元気な会員さんから苦情は出たが…)。

バスで島の山古墳(川西町)へ直行。これも馬見古墳群の1つ。全長190mの墳丘の周囲に盾形の周濠がめぐる前方後円墳で、濠に満ちた水は横たわる墳丘の樹林(竹林)を映していた。雄大にして静寂。時の流れが止まったような落ち着いた風景。さっそく1句詠まれた俳人も…。この古墳から掘り出された石室天井石の1枚が隣接する比売久波神社の踏み石に使われていた。

最後は廣瀬大社(河合町)。長い趣のある参道(何故か日露戦争戦利品が展示)の奥に拝殿・本殿がある。この神社は奈良盆地の河川が一点に合流する地に位置しており、水を司る神として、天武天皇が風の神である龍田大社と一対になって祈願された。それ以降も歴代天皇が国家に事あるごとに奉告祈願され、旧官幣大社である。今では砂かけ祭り(御田植祭り)でも有名。神前に揃って神妙にお参りをした。『水を司る神様!今後、木曜日が晴れますように!』と。曼珠沙華にお彼岸近しと感じた4市・町巡りツアーはこれにて帰路へ。

(森英雄)